

薬局大航海時代～未来への羅針盤

三菱電機ITソリューションズ「AnyCOMPASS」

地域包括ケアシステムの構築が求められている中、保険薬局は“薬を渡す場所”から“地域における健康管理の中核プラットフォーム”への進化が期待されている。学術大会の展示ブースでは「薬局大航海時代～未来への羅針盤～」をテーマに薬局が地域における健康管理の中核プラットフォームとして、この大航海時代を乗り切るための羅針盤となるような様々な製品・サービスを紹介する。

これまで同社が提供してきた各製品を一つのクラウドサービスに統合する新ブランド「次世代コミュニケーションサービス AnyCOMPASS」。その第1弾として、6月にサービスを開始したクラウド版電子薬歴は、薬歴システムを単なる薬歴管理だけではなく、“地域医療のコミュニケーションツール”として、保険薬局を支えるべきシステムと考えられており、『しっかり・スピーディー・繋がる』の3点をコンセプトに開発されている。

患者の主訴からプロブレムを確実に把握し、プロブレムの対策状況を見える化することで、患者ごとの服薬指導を『しっかり』とサポート。画面はユニバーサルデザインを採用し、必要情報をシンプルに表示することで、患者情報、処方変化、過去の薬歴などを一目で把握できるようにした。

確認・指導が必要な項目は、赤マークの表示（特許取得済み）で、薬歴記載を『スピーディー』に。また、独自に搭載しているタイムライン機能（特許取得済み）では、患者、医師、薬剤師の『繋がる』コミュニケーションをサポートする。AnyCOMPASSでは、今後在庫管理や経営分析といった本部機能など、薬局薬剤師DXに必要となるサービス拡張を予定している。

また、厚生労働省が提唱するデータヘルス改革においては、電子処方箋を軸に各種医療情報をクラウド上で連携・活用して薬局薬剤師DXの実現を目指しており、同社も三菱電機グループの



電子署名技術を活用した電子処方箋向け署名機能をリリース。リモート署名（カードレス署名）にもスピーディーに対応し、今後はマイナンバーカード対応も早期に予定し、薬局の電子処方箋の基盤整備をサポートしている。

同社は、過去35年以上にわたって薬局向けシステムの開発や販売を手がけてきた。保険薬局向けシステム「調剤Melphin／DUO」シリーズは、処方箋受付から服薬指導まで保険薬局の業務を幅広くカバー。セミセルフ型自動釣

銭機とも接続可能な保険薬局に特化したPOSシステムとの連動や、チェーン薬局の管理業務をサポートする在庫管理／経営支援／薬歴共有といったクラウド型本部システム等、多彩な周辺システムをラインアップし、薬局業務をトータルにサポートしている。

薬局・薬剤師への期待の高まりと共に薬局の業務領域は拡大の一途をたどっているが、同社は製品やサービスの提供を通して、薬局の変化をサポートしていく考えだ。

「zero for Pharmacy」を目指して ユヤマ「SR-zero」

薬剤師が対人業務に専念できる新しい調剤業務のスタイル「zero for Pharmacy」。調剤ロボット、機器、システムや電子カルテシステムを販売するユヤマが考える新調剤コンセプトだ。その実現のために、まずは調剤機器「ゼロシリーズ」の普及を目指す。

時代が進むにつれて薬剤師が活躍する場面も拡がり、調剤を中心とした「対物業務」から患者を中心とした「対人業務」へとシフトしてきた。しかし、調剤室での調製作業に多くの時間が取られ、薬学的知識に基づいたきめ細やかな服薬指導等、「対人業務」となる患者への対応が難しくなっていることから、薬剤師以外の人に調剤機器の操作を安心して任せられる新しい調剤業務のスタイルを構築する必要がある。

人が操作する以上避けることのでき

ないのがヒューマンエラーの発生と、機器を操作する薬剤師以外の人が判断を加えてしまい処方と異なる調剤がされるかもしれない、といった課題がある。

同社では、その対策として調剤機器「ゼロシリーズ」として、水割分注機「miniAQUA-zero」、鑑査システム一体型自動散薬秤量機「auto onedy-zero」、自動秤量機能付き散薬分包機「SR-zero」の発売を開始。新コンセプト「zero for Pharmacy」実現を目指している。

新コンセプトは、薬剤師が調剤スペースに滞在する時間をゼロにする「ゼロファーマシスト」、ヒューマンエラーによる調剤過誤をゼロにする「ゼロエラー」、全自动での調製作業に関わる時間をゼロにする「ゼロタイ

ム」の三つの「ゼロ」

その中でも「SR-zero」は、専用のカセットから散剤の必要量を秤量しながら自動的に払い出し、配分、分包する。薬品カセットを装着するのは人だが、散薬カセットにはRFIDチップが付いており、処方と異なるカセットがセットされているとエラーでお知らせ、スタートしない仕様になっており、ヒューマンエラーを未然に防止する。また、本体幅76cmのコンパクトサイズながら、散薬カセットを最大で五つまでセットできる点も特徴の一つだ。さらに、量の少ない分包にも対応。1カセット当たり最小0.3gから払い出せる。分包完了後は、散薬の通る経路に重曹を流し込み自動で清掃する等、安全性も高いレベルで実現している。

薬剤師以外の方に操作を安心して任せることで、ますます重要な薬剤師の対人業務の時間確保のツールと



して期待される。

第56回日本薬剤師会学術大会付設薬科機器展示会（和歌山県民文化会館）では、「SR-zero」をはじめ、タスクシフトにつながる最新の調剤機器を多数展示する予定だ。

第56回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)

	クオールホールディングス株式会社 〒105-8452 東京都港区虎ノ門四丁目五番地 電話○三一五〇〇五九一七一〇一七一〇一七一 代表取締役社長 中村敬一		株式会社メディカルシステムネットワーク (なの花薬局) 〒100-0010 札幌市中央区北二条西二四丁目三番地 電話○一一六一六一〇六九一〇六九一〇六九 代表取締役社長 田尻稻雄		中北薬品株式会社 〒460-8515 名古屋市中区丸の内三一五一五（油伊ビル） 電話○五二一九七一三六八一 代表取締役社長 中北馨介		株式会社富士薬品 〒330-9508 さいたま市大宮区桜木町四一三八三 電話○四八六四四三二四〇三二四〇三二四〇 代表取締役社長 高柳昌幸		白井松新薬株式会社 〒528-0052 滋賀県甲賀市水口町宇川三七一 電話○七四八六二三二五〇 代表取締役社長 安藤芳彦		森下仁丹株式会社 〒306-0121 本郷城東二丁目七七一 電話○六一六七六一六七六一六七六一 代表取締役社長 森山正隆
--	--	--	---	--	--	--	---	--	--	--	--